

タイトル「**2018年度 観光学部シラバス**」、フォルダ「**2018年度 観光学部シラバス**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	観光プロデュース論C																																		
担当教員	中串 孝志																																		
対象学年	1年	クラス	T1																																
講義室	T－101	開講学期	後期																																
曜日・時限	金3	単位区分	選必																																
授業形態		単位数	2																																
準備事項																																			
備考																																			
科目名(英語表記)																																			
授業の概要・ねらい	科学の急速な発展に反比例するように市民の科学離れが進んでいる。しかし最先端の科学は生活の隅々に入り込んでいる。科学と社会の接点には「科学によって問うことはできるが、科学によっては答えられない」問題群が存在し、大きな社会問題となっている。そこで科学に関係した仕事に就く人は市民の立場になって科学をわかりやすく伝えるだけでなく、双方向にコミュニケーションする工夫が求められている。これらの事象は、地域文化・歴史・芸能・自然と様々な分野の専門知識の宝庫である観光分野や、将来を見据えたまちづくりの分野にも共通して見られる。 そこで本講義では「きちんとものを考える」ことから最先端科学の代表的な領域である宇宙を題材に科学者たちが市民とコミュニケーションするべく取り組んでいる活動まで、様々な題材を取り上げ、理科系だけでなく「人文・社会科学」系にも役立つ考え方や手法を学ぶ。いわば、「科学は『理系』の人のものであって『文系』には無関係」などと言う観光学部生のための教養科目である。 なお、対象学年は「1年」と表示されるが、実際には特に1回生向けというわけではなく、全学年が対象である。																																		
授業計画	<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td>1</td><td>ガイダンス／リベラルアーツ他</td></tr><tr><td>2</td><td>科学コミュニケーション略史(1)</td></tr><tr><td>3</td><td>科学コミュニケーション略史(2) & 理科離れ</td></tr><tr><td>4</td><td>超常現象</td></tr><tr><td>5</td><td>詐欺</td></tr><tr><td>6</td><td>マスメディアと科学</td></tr><tr><td>7</td><td>マスメディアと科学(2) / 放射線と被曝(1)</td></tr><tr><td>8</td><td>放射線と被曝(2)</td></tr><tr><td>9</td><td>放射線と被曝(3)</td></tr><tr><td>10</td><td>政治の中の科学(1)</td></tr><tr><td>11</td><td>政治の中の科学(2)</td></tr><tr><td>12</td><td>科学コミュニケーションの実践(1) / 科学なんて要らない</td></tr><tr><td>13</td><td>科学コミュニケーションの実践(2)</td></tr><tr><td>14</td><td>科学コミュニケーションの実践(3) / リスク情報</td></tr><tr><td>15</td><td>総括</td></tr></table>			回	内容	1	ガイダンス／リベラルアーツ他	2	科学コミュニケーション略史(1)	3	科学コミュニケーション略史(2) & 理科離れ	4	超常現象	5	詐欺	6	マスメディアと科学	7	マスメディアと科学(2) / 放射線と被曝(1)	8	放射線と被曝(2)	9	放射線と被曝(3)	10	政治の中の科学(1)	11	政治の中の科学(2)	12	科学コミュニケーションの実践(1) / 科学なんて要らない	13	科学コミュニケーションの実践(2)	14	科学コミュニケーションの実践(3) / リスク情報	15	総括
回	内容																																		
1	ガイダンス／リベラルアーツ他																																		
2	科学コミュニケーション略史(1)																																		
3	科学コミュニケーション略史(2) & 理科離れ																																		
4	超常現象																																		
5	詐欺																																		
6	マスメディアと科学																																		
7	マスメディアと科学(2) / 放射線と被曝(1)																																		
8	放射線と被曝(2)																																		
9	放射線と被曝(3)																																		
10	政治の中の科学(1)																																		
11	政治の中の科学(2)																																		
12	科学コミュニケーションの実践(1) / 科学なんて要らない																																		
13	科学コミュニケーションの実践(2)																																		
14	科学コミュニケーションの実践(3) / リスク情報																																		
15	総括																																		
到達目標	詐欺やカルトなど、身のまわりの「科学を装ったウソ」から身を守ることができる。科学と社会とが接する領域での諸問題について考えることができる。科学的に考えるということの必要性を理解する。																																		
成績評価の方法	期末レポートまたは試験の合計点で評価します。詳しくは初回のガイダンスにて。																																		
教科書	特に指定しません。																																		
参考書・参考文献	特に指定ませんが、以下のような「読み物」は得るものが多いと思います。 ・『メディア・バイアス あやしい健康情報とニセ科学』松永和紀(光文社新書) ・『だましの技術！』(ナレヅエンタ読本15) ゆうきとも & 多田文明 ・『もうダメされないための「科学」講義』菊池誠ほか(光文社新書) ・『知ろうとすること。』(新潮文庫) 早野龍五 & 糸井重里 ・中串孝志, 教養は絶望の向こうに ―科学コミュニケーションの現場から―, 和歌山大学「教養の森」センター年報, 1, 40-44, 2015 ・中串孝志, 2017年3月14日福島第一原子力発電所探訪記, 観光学, 17, 57-65, 2017 以下の論文は授業で扱う話題の一つに密接に関連します。 ・中串孝志, 古川邦之, 福島県内の避難指示区域等でない市街地と県外との外部被ばく線量比較, 『観光学』, 12, 41-47, 2015																																		
履修上の注意・メッセージ	1. 形式上、対象学年は「1年」となっていますが、全学年対象です。 2. 2015年度までの「科学コミュニケーション論」履修済みの者は履修登録不可(観覧は自由)。 3. 「科学」という単語を見た瞬間に「この科目は取らない」と思った諸君が後悔するような授業をすることを、目標としたいと思います。																																		
履修する上で必要な事項	自分の興味に合う授業内容等待つのではなく、授業内容を興味ある分野へと自ら関連づけていく積極性が必要です。																																		
受講を推奨する関連科目	観光と地球、観光と宇宙、21世紀サイエンス論(教養科目)、「教養の森」ゼミナール(教養科目)																																		
授業時間外学修についての指示	本授業の授業計画に沿って、準備学習と復習を行ってください。さらに、授業内容に関連する課題に関する調査・考察を含めて、毎回の授業ごとに自主的学習を求めます。																																		
その他連絡事項	なし。																																		
科目ナンバリング																																			